



●ある集い● (社) 神戸青少年会議所

## (社) 神戸青年会議所

Think Globally,Act Locally—  
Creating Leaders for Positive Change

### —変革の風を国際都市神戸に

20歳から40歳までの地元神戸の若手経済人で組織される(社)神戸青年会議所(以下神戸JYC)。現在、異なる業種に携わる約260名のメンバーが在籍している。

本年度の理事長を務めるのは、インドネシア人であるキラン・S・セティ氏。「Think Globally,Act Locally—Creating Leaders for Positive Change—変革の風を国際都市神戸」いうテーマのもとに様々な事業を開していく。

「世界規模な視野で物事を考え、活動は地域から起こることが、積極的に変革を遂げようとするリーダーを育てる。そして時代に適つたりーダーが、国際都市神戸に変革をもたらすことになる」とキラン理事長は話す。

1958年に産声をあげた神戸JYCは、今年、設立45周年を迎える。5月予定される式典では、これまでの神戸JYCの歩みを振り返りながら設立50周年に向けた街づくりの提案、さらには、夏の新たな集客イベントとして昨年7月20日の海の日に立ち上げた「みんなまつり」の充実を図る。神戸JYCメンバーは、次代を担う「若い力」が、地域の活性化に寄与することを願い、熱い思いで活動している。

(生田神社にて)

## 宝地院大学大忘年会

モダニスティックでおしゃれな  
ワイワイガヤガヤ

島京子さんから年末恒例の「宝地院  
大学大忘年会」当日の朝に電話があつ  
て、ここに書くお役を仰せつかつた。  
それで、私は暮れのことで今年はおや  
すみしようと思っていたのにおつとり  
がたなで駆けつけことになった。

すでに会場のお寺・宝地院の本堂は  
ワイワイガヤガヤ、みなさんようそれ  
だけ話題があるわと思うくらい喋るわ  
喋るわ、仏さんの前でのハワイアン・  
フラダンスがはじまると飛び入りあり、  
酔っぱらって木魚をたたく人もあり、  
やがて中西勝さんの音頭で二紀会会員  
十数名による余興に入るや否や、やん  
やんやの大喝采で本堂は大きわぎ。  
さぞかし仏さんもびっくりされたこと  
だろう。

今年は第21回目、みなさんその年数  
だけお歳を召されたはずなのにあいも  
かわらずお元気かつお若いのです。そ  
のうえ酔うほどにどなたも賢くみえま  
す。

明治末期の「パンの会」が私の頭を  
よぎる。このモダニスティックでおし  
やれなワイワイガヤガヤ、ここにいっ  
ぱい詰まつたエネルギーからそんなこと  
を思つていた。人間は遊びながら賢く  
なるんだ!

(たかとう 匠子)

## ●ある集い●宝地院大学大忘年会



浄土宗薬王山 宝地院  
神戸市兵庫区荒田町3-17-1  
TEL 078-511-5247

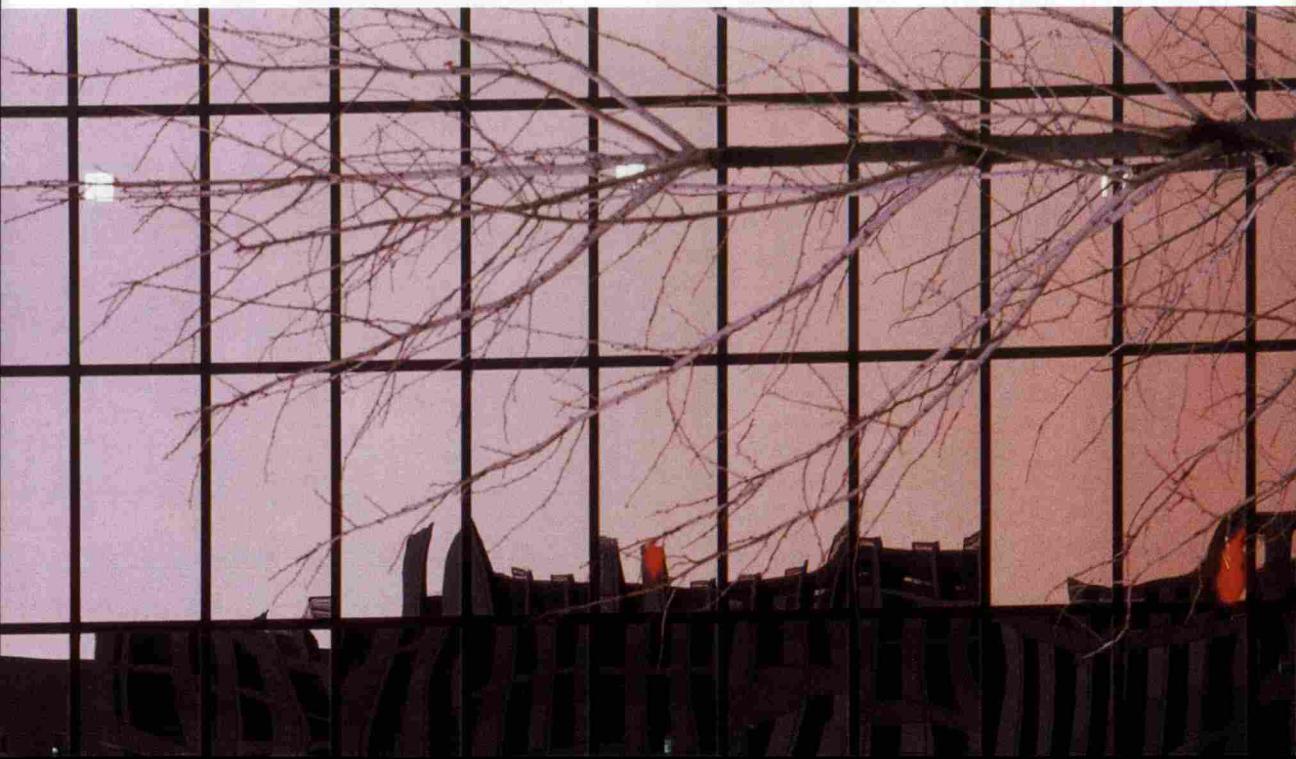
# ANGLE KOBE

---

HAT KOBE

FEBRUARY

PHOTO Mann Kikuchi





# 国比べ

歌 美空ひばり

STOM CQS-11613-CP 税込定価 ¥1,000

全国有線放送・通信カラオケ注目中！

鹿児島・桜島

カセット ¥1,000  
C D ¥1,000



## 幻の名曲 いまよみ返る

月刊神戸っ子  
から贈ります。

美空ひばりファンの  
鹿児島出身  
 笹山幸俊前市長も  
 絶賛。

神戸鹿児島  
連合県人会  
推薦



日本のすべての人々の心に届けたいと、名曲出版のために活動を始めた、白男川さんの友人であり、大のひばりファンである薩摩男児・木下忠久さんを通じ、プロデュースは神戸在住の稻田勝己さんが手がけることになった。鹿児島に生まれ、ふるさとを愛する人々の手によって、名曲がよみがえったのである。

### 国比べ

小椋佳 作詞・作曲  
若草恵 編曲

旅ののれんで知り合った

会つたばかりでうちとけた

男二人が酔つて国比べ

薩摩隼人の太い肩

俺も負けずに腕まくり

ちやんそちやんそと

卓たたく

花火背中に桜島

目には仕掛けの墨田川

なんのなんのと

笑つてみせりや

酒の強さで勝名乗り

酒の強さで勝名乗り

肴手造り味の良さ

楚々とおかみの品の良さ

男二人が酔つて国比べ

男天国薩摩には

恋の涙はあるまいに

酒もさほどは飲むまいに

女心は桜島

日に七度も色かえる  
なんのなんのと笑つた顔に

もしも男が強いなら  
酒に強くはなるまいに  
ちやんそちやんそと

### お申込 西日本販売元

(有)月刊神戸っ子  
〒650-0011 神戸市中央区下山手通  
2丁目13-3-401  
Tel 078 (331) 2246  
Fax 078 (331) 2795



表紙／石阪春生  
セカンドカバー／米田定蔵  
目次／久本直子

## 2・3月号目次◆2003-501

- 10 KOBECCO2003／安田蓮美 角田裕博  
12 神戸スナップ  
14 ある集い  
16 ANGLE KOBE／菊地満  
20 酒特集①／師弟は語る  
24 酒特集②／麻里絵の酒蔵めぐり “灘の生一本が酒造処で楽しめる”  
34 神戸のお嬢さん／喜多愛佳理さん 大迫さゆりさん  
46 エッセイ・バンビーノ神戸のクラシックカー⑦  
「かわいいお尻のサンゴロー」  
49 私の意見／西村隆治  
51 ポエム・ド・コウベ／松尾繁晴  
52 追悼さよなら小泉康夫兄  
54 インタビュー玉岡かおる  
55 酒特集③／鼎談 中西勝 佐川満男 大西浩仁  
64 酒特集④／酒徒番付座談会 酒徒番付発表  
70 神戸JC先輩・後輩対談⑤岩田弘三×キラン・S・セティ  
76 神戸のアーバンデザイン／小林郁雄  
77 神戸のモダンリビング／中川俱子  
78 復活プロフェッサーPの研究室／岡田淳  
80 次代を創る神戸のニューリーダー／村上豪英  
82 ひょうごウォーク  
84 有馬歳時記  
86 話題のひろば  
88 神戸の本棚  
90 びっといん  
92 イベントスケジュール  
94 ポケットジャーナル  
98 各駅停車の神戸歴史ウォーク②／田辺真人  
100 北斎ミステリー②／中右瑛  
102 みだら夜話②／浅黄斑・え／犬童 徹  
104 コーヒーカップの耳⑧／出石アカル・え／菅原洸人  
106 神戸はしけの女②／岡本真穂・え／新家保夫  
116 神戸っ子俱楽部法人会ニュース  
120 KITANO HOT NEWS  
122 神戸うまいもん＆ドリンクNEWS  
123 神戸百店会だより  
写真／米田定蔵 池田年夫 松原卓也 米田英男

月刊神戸っ子代表取締役編集長  
小泉美喜子



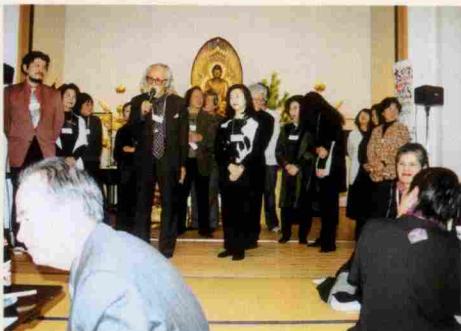
無題 1949 (油彩) 二紀初出品二紀大賞



大地の聖母子 1971 (油彩)  
第15回安井賞



黒い聖母子 1972 (油彩)  
二紀文部大臣賞



★ 宝地院大学忘年会  
神戸二紀会の画家たちと  
2002年12月28日夜

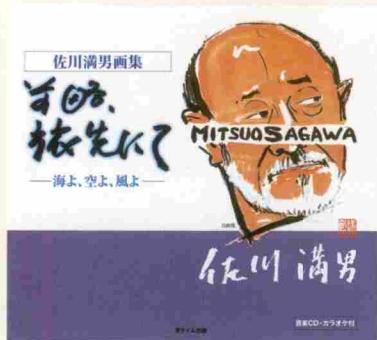
# 人生は旅／絵と歌と漫才と

## ● 中西勝の世界

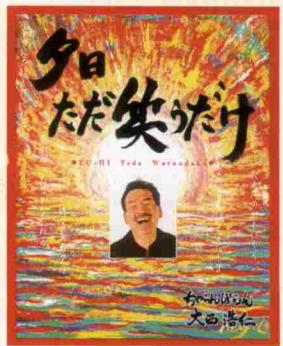
鼎談／師弟は語る 中西勝(画家) 佐川満男(タレント) ちゃんぽらんばらん大西浩仁(漫才師)



画集「中西勝の世界」



佐川満男画集「前略、旅先にて」



「夕日ただ笑うだけ」大西浩仁

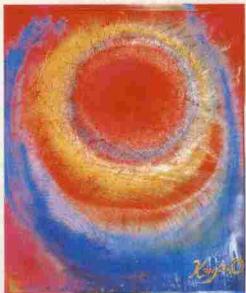
# 佐川満男の世界



「神戸の祈り」1996.6  
第43回関西二紀展初入選



「がんばろう神戸」  
1996.2第40回  
神戸二紀展初入選



「極楽浄土」(100号)第49回  
関西二紀展入選2002.6



「沖縄の夕日」(100号)  
第56回全国二紀展  
入選2002.6

## ちやらんぽらん大西浩仁の世界



★ 越木岩神社で  
「沖縄の夕日」を描きあげ  
飯森隆年宮司と  
2002年12月17日夜

★ P56～63の座談会をご覧下さい。



第4回関西二紀会入選作「廃品」1957.3 (17才)



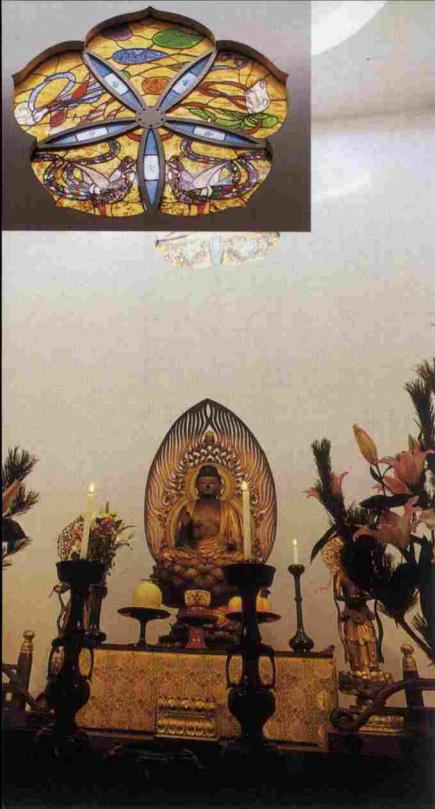
兵庫県湯村温泉にて  
「花風巻」2002.4.3



習作「酔っぱらい」  
油性鉛筆 1976.6.1



★ チキンジョージにて  
2002年12月18日夜  
増田俊郎さんと二人の  
合作曲のライブが楽しい



宝地院は昭和二十年三月の空襲によって全焼、昭和二十一年三月、浩安和尚が中国から復員してみると両親はすでに亡く徒手空拳で寺の復興に立ち向かうこととなる。

私はこの寺で家族の一人として暮らし、ここから夢野台高校に通わせてもらつた。当初は浩安和尚と弟の安正さん（当時滝川高校最高学年）と私の三人の男世帯。安正さんには、炊事洗濯、掃除と家事の基本を教えていただいた。

この安正さんこそ今の正興住職と弟正業副住職のお父上なのである。当時は今のような便利な家電製品はない。すべて手仕事だ。飯炊きは土星の輪のついた鉄釜に米を研ぎ、手首で水加減を計り、重い木製の蓋をしてこれをかまどにかけ、薪をたきつける。初めチヨロチヨロ中バッバ、グジュグジュ時々火を引いて赤子泣いても蓋取るなどの要領だ。



## 宝地院 「中川浩安上人」のこと

安岡利美

■浄土宗・薬王山



始まり、二十五年に三重の納願寺からご本尊阿弥陀如来をお迎えする。寺の復興の進むにつれこの寺の居候も徐々に増え、家事を仕切つてくださる年配の女性の加勢も得て食卓はますますにぎやかになっていく。物のない時代、老若男女来る人を拒まず、後には学生が主となるが無料で下宿を提供し、賄いを続けた。

和尚は若くして大悟徹底、生死の境を超えてしまわれた。私にと

**宝地院縁起** 安徳天皇のご菩提をとむらうため、弘安二年（一二七九年）に創建。当寺域は平頼盛（平清盛異母弟）の山荘で治承四年六月三日安徳天皇が入御された。浄土宗・薬王山・宝地院と号し、本尊は阿弥陀如来。福原西国靈場第二十番。

つて浩安和尚は父親代わりであり、頼れる兄貴でもあり、高校の保護者懇談会にも出ていた。大きな懐に素直にとびこんでいるおひとであつた。

寺の復興が落ち着くと積極的に社会活動を始め、三十年に保育園を開設、三十三年からは神戸拘置所の教誨師をつとめられた。浩安和尚が表の活動をされるなか、内にあつて支えたのは安正和尚であった。保育園の実務を取しきり、寺務一切をゆるがせにせず、今の宝地院の基礎を築かれた。居候が蝶集することが出来たのは、ひと

つには安正和尚の気遣いと温かさに支えられてのことだったのかものであらう。中西勝先生は言うの話をよく聞いてくださり、その大きな懐に素直にとびこんでいるおひとであつた。

寺の復興が落ち着くと積極的に社会活動を始め、三十年に保育園を開設、三十三年からは神戸拘置所の教誨師をつとめられた。浩安和尚が表の活動をされるなか、内にあつて支えたのは安正和尚であつた。保育園の実務を取しきり、寺務一切をゆるがせにせず、今の宝地院の基礎を築かれた。居候が蝶集することが出来たのは、ひと

くも六十三年五月遷化。

正興和尚が平成十四年三月二日普山式を終えて正式に第二十二世住職となり正業和尚は副住職として往時と同じくここに兄弟そろつて宝地院を受け継がれてゆく。先が楽しみである。

宝地院は文人墨客にも縁の深い寺である。それは深い知識人であ

り芸術への並々ならぬ理解をもつておられた浩安和尚の人柄によるものであらう。中西勝先生は言うに及ばず、古くは島京子さんの嚴父馬陵翁（中川賢英和尚を行頭に詠みこんだ七言律詩をつくる。漢学者）、佐藤春夫（浩安和尚青年時代をモデルにした小説「前途展く」がある。）小川竜彦（一枚起請文の研究）『法然上人絵伝』（芹沢銓介画）、元東大寺管長・清水公照（十大弟子の水彩画）、鴨居玲、インド音楽の中川博志などなど。震災で傾いた本堂復元に際し、地下室を作つて畳の間と一段たかいステージを設けられたのも正興和尚の未来志向も容れ、開かれた文化志向の表れといえようか。

最晩年の浩安和尚はこよなく日本酒を愛し、三度のご飯が酒であつたといつてよい。周囲の心配を余所に、シミひとつない色つやのよさも酒のせいと豪語される。陽気ないお酒だった。時には故郷の貝殻節、ジャンガラ節も出る。旺盛な知的好奇心で談論風発、最新の遺伝子科学の粹「生命の暗号」という出版されたばかりの書物を教えられた時は脱帽であった。涙もろく少しの感動にも涙されることが多かった。磊落で人の心の機微を知る達人であった。中川浩安和尚は平成十一年五月遷化。



中西勝画伯の描く中川浩安上人

## 麻里絵の

# 灘の生一本が 酒造処で 楽しめる

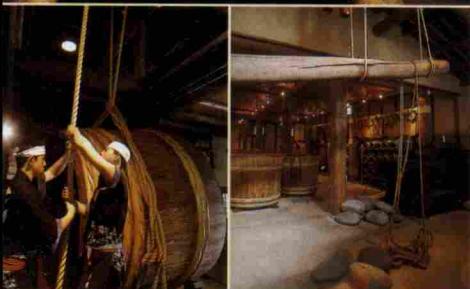
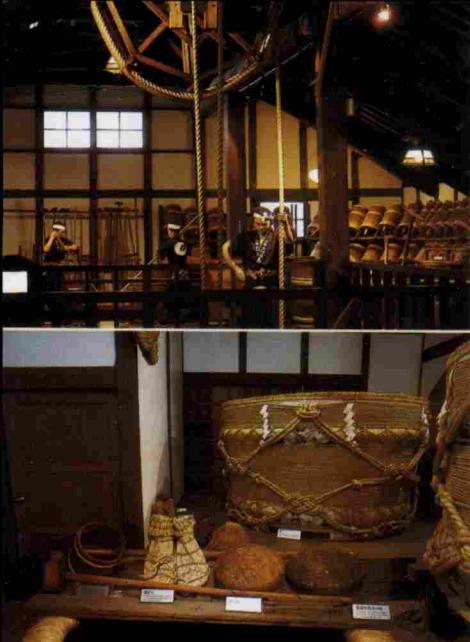
プロフィール  
鶴殿 麻里絵 (24才)

昭和53年3月7日生まれ フリー・ライター  
主に「食」の取材を中心に活動中  
連載に日本経済新聞土曜夕刊  
「食べる」コラムに執筆中。

## 一麹一醸三造り



神戸の観光地といえば港めぐり・異人館・中華街と連想しがちですが、今回の取材を経て「灘の酒造って本当に奥深い」と改めて実感することができます。日本酒が大好きな私にとって今回の旅は最高の贈り物。雪の舞う梅香る季節。酒蔵を訪ねた私に色褪せた道具たちが歴史を静かに語りかける。酒造りに全てをかけた蔵人たちの情熱が本誌を通して皆様に伝われば幸いです。



# 櫻正宗記念館「櫻宴」

新旧と時代の良さを  
素敵に調和



江戸時代からの歴史を物語る太門

櫻正宗創業300年の歴史を物語る立派な大門を抜けると、お洒落に欠かせない「水」と「自然」をテーマにした癒しの正面玄関が広がります。各所にある年代物ボスター等の飾り付けと対照的な新感覚のオブジェなど、新旧の時代の良さを程よく調和させた素敵な空間内でした。櫻正宗といえば、宮水の発見など日本酒の歴史のなかでも、重要な役割を果たしている老舗蔵です。赤米で仕込んだ赤色の酒「花露あか」やコクがあり本物指向の「金稀」など由緒あるお酒が有名です。

よこ、なつかしい看板や酒瓶など  
その歴史を静かに語る数々の展示  
品があります。また和風かに料理  
レストランもテーブルと個室のお  
座敷があつて用途によつて使い分  
けできます。メニューもお寿司から  
会席、お手頃なランチまで幅広  
く取り揃えあります。こちらで  
季節限定の稀少な原酒量り売り  
(1合1000円)もいただける  
ので北海道直送のかに料理とご  
一緒にどうぞ。余談ですが、おみや  
げにおちょこ付でとてもかわいい  
「飲みくらべセット」(6本250  
0円)を買いました。おいしいお  
酒と、かに料理を今度は是非プラ  
イベートでも伺いたいです。

1階はお洒落で落ち着きある力  
フエとショップ、2階には昔の洒  
造りの貴重なVTRや珍しいおち

酒と、かに料理を今度は是非プラ  
イベートでも伺いたいです。



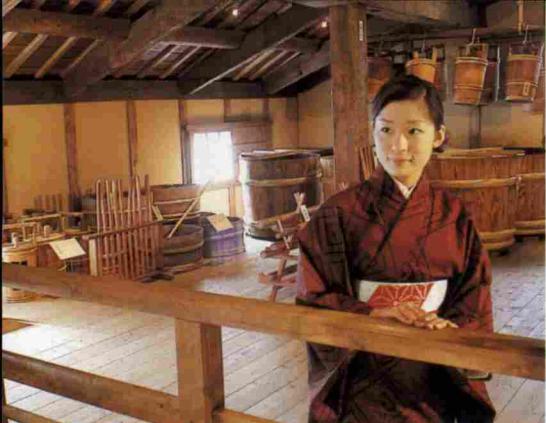
人気のかに会席「甲羅」(2000円)



櫻正宗記念館「櫻宴」  
神戸市東灘区魚崎南町4-3-18  
TEL.078-436-3030  
交通：阪神・六甲ライナー  
魚崎南町駅徒步約5分  
開館時間：10時～22時（カフェ 10時～19時）  
レストラン「櫻宴」  
営業時間：11時30分～15時 17時～22時  
(ラストオーダーは1時間前)  
定休日：火曜日

# 昔の酒蔵「沢の鶴資料館」

伝統の灘酒に創意工夫を  
こらした貴重な文化財



「酒造り」の歌声に誘われて



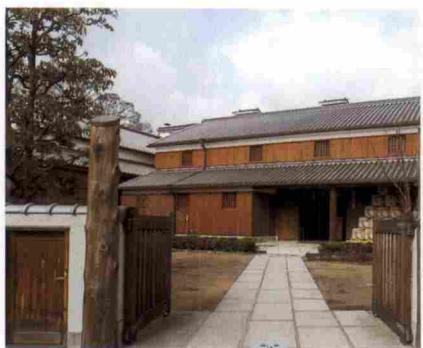
沢の鶴自慢のお酒がならぶ  
ミュージアムショップ



全国でも珍しい「槽場」の造構

創業1717年の沢の鶴の歴史をいっぺいつめこんだ「沢の鶴資料館」は兵庫県重要有形民俗文化財に指定されています。一度は震災で全壊してしまったものの倒壊した木材を再利用し、月日をかけて再建しただけにやはりどこか趣が感じられる建物でした。館内に流れる「酒造り唄」の活きある歌声に誘われ、実際に使用されている大釜の間を進んでいくと、気分はすっかりタイムスリップして当時の酒蔵にいるよう。年季の入った桶や樽、甕などの展示品を見れば、自然と威勢のいい蔵人たちの仕事姿が目に浮かんでくるようです。また、震災後に神戸市教育委

員会の発掘調査によつて発見された全国でも珍しい「槽場（ふなば）」跡は、一見の価値あり。深いコクとキレの良さで伝統の灘酒がどのようにしてできたかが手にとるようになります。もちろん、兵庫の名産なども販売している、顔写真入りのラベルを貼つて記念ボトルを作れたりと遊び心もいっぱい。もちろんこちらで試飲もできますよ。この日は資料館限定の「敏馬の浦」をいただきました。アンティークなボトルがおしゃれで、こくがあつてまろやかな純米大吟醸酒でした。

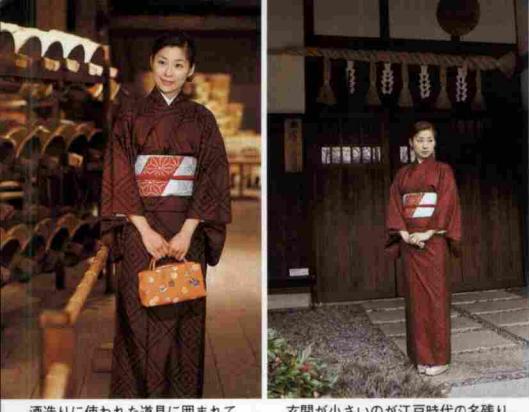


平成11年3月に復興オープンしました



# 白鶴酒造資料館

蔵人たちの酒造りに対する  
情熱を人形で再現



酒造りに使われた道具に囲まれて

玄関が小さいのが江戸時代の名残り



日本酒が出来上がるまでを人形たちが伝えてくれる



昭和44年まで本店1号蔵として実際に稼動していた酒蔵が、震災で全壊後に一部の梁や柱を骨組みにして復元したという資料館です。そのため黒褐色にくすんだ支柱を見つめていると歴史の重さをひしひしと感じることができます。仕込みや酒などを貯蔵するための大桶を2階に移す力強い作業風景や蔵人たちの食事風景などが、リアルな人形たちによって再現されていて、当時の酒造りに対する情熱までもが伝わってきそうでした。さらに館内には當時7カ所に2分程度のビデオが流れさせてわかりやすく説明していただけるのも特徴の1つ。他に110名収容容

の本格的な映写ホールがあり、15分の白鶴の歴史「とろとろと琥珀の清水津の国」も見ることができます。伝統的な酒造りの貴重なフィルムなのでお時間があれば是非足を運んでみてください。またしぼりたての原酒が試飲できるコーナーもあります。試飲の方も丁寧に書いてるので利酒士気分で一度試してみてはいかがでしょうか。

ショッピングでも販売していますが酒蔵でしか味わえなかつた出来立て風味のお酒を忠実に再現した「蔵搾り3000ml」(380円)は華やかな香りと微発砲の心地よい刺激で、生きたお酒そのものを感じることができます。



# 神戸酒心館

## 酒と食と文化を 味わう蔵



利き酒セットをいただきました



お食事処「さかばやし」



灘のお酒と食と文化が楽しめる「神戸酒心館」というだけあって、約140坪の木造の旧酒蔵を修復した酒心館ホールでは毎月、音楽・伝統芸能などを主催イベントとしています。また「東明蔵」の利き酒コーナーでは「福寿蔵」で醸造されたおすすめのお酒3種と本格手作り豆腐の「利き酒セット」(500円)やデザートなどが木製のカウンターで楽しめます。販売コーナーでは、お酒はもちろん、自家製とうふ・湯葉をはじめ酒無農薬大豆と塩田にがりで作った陶器などのおみやげの種類も充実しています。そして酒匠に相

談もできる「東明蔵コーナー」では試飲もできますし、灘の地酒も含めて色々と買うことができます。中でもめずらしいのが吟釀と純米が選べる「しぼりたて原酒の量り売り」。昔は木の樽で出荷され各家庭にある容器を酒屋さんへ持つて行き、そこでつめてもらえたことから今でもこちらでは実施しているらつしやるとか。しぼりたてのお酒が割安で買えるし環境問題にも取り組めてまさに一石二鳥なアイデアですね。他に宴会も可能なお食事処「さかばやし」もあります。



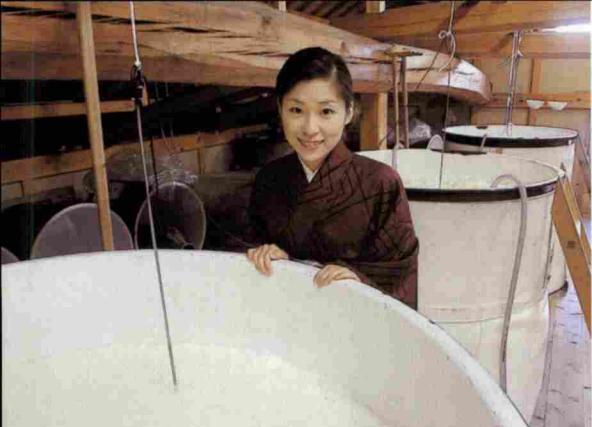
昔の蔵人の道具を手に



玄関をくぐれば広い庭園がある

# 泉勇之介商店

お酒が生きていることを  
実感できる酒蔵



酵母菌がぶくぶくと音を出しています



ここが良酒が生まれる蔵内

創業は明治初期。灘の宮水・良質の播州米・自然の風土と、伝統の技術を長年受け継いでこられました。全国でも珍しい木造蔵の情緒あふれる門戸を開くと、そこはまさにお酒が生きていることを実感できる場所。機械に頼らず手間と時間をかけて作るため少数生産しかできません。しかし杜氏と6人の蔵人たちはお客様に満足していただきたいという一心で、今日も底冷えする蔵内で懸命に酒造りに励んでいらっしゃいます。お話を伺っているすぐ後ろでも、酵母菌がぶくぶくと音を出して増殖をくり返していました。「温度や環

境のちょっとした変化が日本酒の味をがらりと変えてしまうため、私たちは交代でまめに観察しなければならないのです」と高橋藤一杜氏。

そうしてできあがった清酒「しばりたて生原酒」は冬期限定品で、深いこくとまろやかさが重なり合って、その中でも作り手の力強さを感じられる奥深い清酒でした。

また、3代目泉勇之介社長がプロデュースされた「神戸の風」も透明でスマートのお洒落な瓶に入つていておみやげには喜ばれそうです。



できたてのお酒をいただきました 木造蔵の情緒あふれる門戸



## 泉勇之介商店

神戸市東灘区御影塚町1-2-7  
TEL.078-851-2722  
交通：阪神石屋川駅より南へ徒歩10分  
時間：9時～17時（要予約）  
入場料：無料 定休日：日・祝日  
試飲：可

# こうべ甲南 武庫の郷

灘の銘酒とお漬物  
レトロな建物



お漬物と金戸焚きのご飯を  
いただける「平介茶屋」



昭和初期の面影の玄関



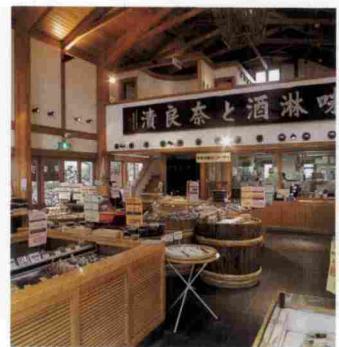
灘酒の利き酒コーナー「木瓜」

平成9年12月に蔵開きをした「甲南漬資料館」は洋風と和風のレトロ感溢れる建物。それもそのはず、ここは2代目の高嶋平介社長のご自宅を改装したものなんですが、館内の所々で使用されている木材は昔のものを利用しているため木の色調がまるでその歴史を語っているよう。風情ある中庭を散歩していたら大きな金戸を見た。なんとこのお食事処「平介茶屋」のお米は全てこの金戸で本格的に薪で焚いた炊き立てご飯なんだとか。早速いただいた「平介定食」(900円/要予約)はお漬物を新しい感覚で食べられる体に優しいお料理でした。また利酒

平成9年12月に蔵開きをした「甲南漬資料館」は洋風と和風のレトロ感溢れる建物。それもそのはず、ここは2代目の高嶋平介社長のご自宅を改装したものなんですが、館内の所々で使用されている木材は昔のものを利用しているため木の色調がまるでその歴史を語っているよう。風情ある中庭を散歩していたら大きな金戸を見た。なんとこのお食事処「平介茶屋」のお米は全てこの金戸で本格的に薪で焚いた炊き立てご飯なんだとか。早速いただいた「平介定食」(900円/要予約)はお漬物を新しい感覚で食べられる体に優しいお料理でした。また利酒

コーナー「木瓜」では月替わりで3種類の清酒を楽しむことができます。自家製おつまみ(500円)なども出していただけて、カウンター越しにお店の方ともゆつくりお話ができるので女性一人でも気軽に立ち寄れそう。

ショップコーナーでは、高嶋酒類食品オリジナルのみりんの試飲もできるのです。生まれて初めておちょこに並々とついでいただいたみりんを1杯飲みました。これが自然の風味が口中に広がって甘くて飲みやすいのには驚き。お料理に使うともつとおいしくんだろうな。



甲南漬、魚介類の粕漬など約300種類の「甲南漬本店」

こうべ甲南武庫の郷  
神戸市東灘区御影塚町4-4-7  
TEL.078-842-2508  
交通：阪神新在家駅より南東へ徒歩3分  
時間：甲南漬本店(9時～19時)  
甲南漬資料館(10時～17時)  
平介茶屋(11時30分～13時30分)要予約  
清酒コーナー「木瓜」(12時～17時)  
定休日：なし 入場料：無料  
<http://www.konanzuke.co.jp>





## 神戸っ子愛読者プレゼント

### ●応募方法

官製はがきにご希望のプレゼント名を記入の上、住所、氏名、年齢、性別、電話番号を明記し、下記までご応募ください。  
抽選の上、当選者は発送をもって代えさせていただきます。

### ●応募先

神戸市中央区下山手通2-13-3建創ビル4F  
月刊神戸っ子「灘のお酒」プレゼント係  
応募締め切り日 平成15年3月10日(当日消印有効)

櫻正宗株式会社

櫻宴お食事券

日本人に好まれるかに料理が、ここ  
灘の里でおいしい宴をします。  
さまざまなかに料理と共にゆつ  
りとお楽しみ下さいませ。

櫻正宗資料館2階  
和風かに料理  
レストラン

3000円分  
(どのメニューにも対応)  
1名様



高嶋酒類食品株式会社

はくびし本みりん

素材のうまみをひきだし、形をくず  
さず美しく煮上げられるので、角煮  
やきんどん、照り焼きなどにも。昔  
ながらの純米本醸造、手造りの自然  
調味料。

720ml×瓶1本  
5名様



白鶴酒造株式会社

厳選した酒米と灘の宮水を使用し、丹  
波杜氏が丹精込めて醸しました。原酒  
ならではの濃醇な味わいと豊かな余韻  
をお楽しみ下さい。

白鶴復古調（レトロ）ラベル  
明治33年のパリ万国博覧会に出品した  
ラベルをイメージして復刻しました。  
(資料館限定品)

500ml×瓶1本+  
500ml×瓶1本セット  
3名様

蔵酒・レトロセット



720ml×瓶1本  
1名様

敏馬の浦

株式会社神戸酒心館

福壽

「酒造りは米造りから」と、神戸・  
大沢地区の契約米を使い、米のうま  
みが最大限に生かされた純米吟醸酒  
です。全国新酒鑑評会で金賞を受賞  
しています。



720ml×瓶1本  
2名様

しぶりたて生原酒

有限会社泉勇介商店

900ml×瓶1本  
2名様

# 神戸で飲んでら 酒もうまか料理も最高!



(上)地どり鍋。ゆっくりとおしゃべりしながら、気づくと満腹に。  
(下)こぢんまりと居心地のよい店内。  
奥の個室は8席、テーブル8席、カウンター10席。



078-333-6613

神戸市中央区加納町4丁目8-15 AMU プラザ1F

【営】12:00 ~ 14:00 (月~金)

17:00 ~ 22:00 (L.O.21:00)

【休】日・祝・祭

やわらか地どり、鍋で一献  
**六花仙**  
加納町

いつもは京会席と天ぷらのお店に、冬に合わせてほくほく湯気の  
お鍋が登場。おすすめは地どり鍋（800円）。宮崎の日向から取り寄せた  
地どりは脂がのっていて、火を通してもやわらかい。軽く炙ったサ  
サミのやわらかなタタキは、梅肉とあわせると口の中でふわり香ば  
しさが広がる。鍋のスープはとり  
がらのあつさり味。玉葱、ニラ、

薄揚げなどを入れると肉と野菜の  
甘みが滲み出る。隠し味のスッポンスープもじんわりと効いてきて、まつたり味に。最後に中華麺  
を入れ、和風も中華も堪能。そしてあつさり味のシャーベット。  
親しい人と和気あいあいと、灘  
のフルーティーな大吟醸「神戸六  
花仙」で一献。これぞ冬の醍醐味。

# お酒とうまいもんに集う店



1階 カウンター、掘りごたつ席  
2階 お座敷30名様まで



☎ 078-321-2987  
神戸市中央区北長狭通2-9-13  
【営】16:00 ~ 23:00 (L.O. 22:00)  
【休】無

冬一番の美食の花、ふく料理。  
酒々井屋では漁場から獲り立ての  
トラふぐをひと皿、ひと鉢に心を  
こめてのお料理。天然素材と、ぼ  
んずのハーモニーは実に断然たる

ものがある。この味一筋の料理長  
の心意気を味わいたい。冬が深ま  
るにつれ、ひきしまった身、歯ご  
たえがふぐ好きにはたまらない絶  
品。「精巣」白子も一段と大きく  
なり、お刺身に、塩焼き、照焼き

の前で身がヒクヒクと動くふぐを  
焼いてくれるのがたまらない。

特撰ふく会席料理は豪華ふぐづ  
くし3万円。てつちり料理800  
0円~, 単品料理2000円~と  
充実している。その味に惹かれた  
常連客も多い。その場でさばく料  
理なので最低でも2時間前には予  
約を入れておく方が良いだろう。

極のぼんず こだわりが生んだ匠の技を駆使  
割烹 酒々井屋  
(しすいや) 三宮